

# フィリピンチーム

2012. 1. 14 ~ 2012. 1. 17

## ■デボラ永藤 (TLCCC 沖縄エルサレム教会)

皆さんのお祈りと献げものを感謝いたします。1月14～17日のフィリピンチームに参加しました。チームは日曜と月曜の2日間で、5つの集会の奉仕と、路上伝道とミニクルセードを行いました。

日曜の午前中はチームが3つの教会に分かれて、それぞれ奉仕を行いました。私は秋元牧師のチームで、元ジョイフル教会の牧師であるカスティヨー牧師のジャイラ教会に行きました。カスティヨー牧師からお子さん方の家族が紹介されたり、中学生だったクリスティーナさんがお母さんになられていて家族と礼拝に見えていたり、秋元牧師もご長男のヨハネ君を紹介したりしておられました。メッセージでは、ジャッキー宣教師の殉教事件の事柄に触れ、その後働きは拡大しているが、殉教が許されたその深い主の計画はまだ成就しておらず、それはこれから現れてくるのであり、フィリピンにリバイバルが起こること、だからその備えをする必要があること、そして殉教事件を通った方々に主は御心を持っておられ、ダバオのクリスチャンの中から、私たちとともに世界に行く人もおこされることなどが語られ、礼拝後は再び多くの方々が挨拶を交わしに来られていました。他にも、主の十字架クリスチャンセンターダバオ教会には真境名牧師のチームが、イバンジェル・アッセンブリー教会には宮下牧師のチームが行ってご奉仕しました。

日曜日の午後は、まず2時からC2Cというジーザス・セイブズ・フェローシップに行っても賛美と、証しと、メッセージをしました。ここには他の教会の方々も集まっておられました。また、スケジュールにジョージ牧師のジョイフル教会の奉仕が入っていませんでしたので土曜の晩に確認すると、エディ牧師が連絡を入れてチームが来ていることを知らせて下さり、日曜の朝になってジョージ牧師から今日5時からの集会に来てほしいと招待がありました。神様はこのチームが遣わされる際に、殉教事件を通った3つの教会に伝えることがあると語っておられたようで、そのひとつであるジョージ牧師の教会に行けるようにとチームで祈っていたところに奉仕の依頼があり、御心なら開く神様の主権を思わされました。その集会にはやはり懐かしい方々との再会があり、皆かつて日本からフィリピンを訪れたメンバー達の名前をよく覚えていらっしゃいました。ここでも若い世代が育ってきており、その若い方々も含め、自分たちの教会にかつて許された殉教事件があり、しかし神はその背後に大きな神の栄光を現すリバイバルの計画を彼らに対して持つておられるというメッセージを、今回伝え聞いたのです。また私たちは神様から語られ、機会があるたびに、チームブログに写真をアップし、インターネットを福音宣教のツールとしてどう用いているか実際に見ていただきながら、神様が語っている方法であり効果的



あることも証しし、お勧めしていきました。フィリピンの教会がリバイバルに向かって歩みを進めていってほしいと本当に思いました。また、賛美でも、証しでも、通訳でも、フィリピンの方々に神様からのものが伝わるように奉仕したいと強く思いました。

月曜日は午前中に孤児たちとの賛美やゲームの楽しい交わりのときがありました。子供たちは靴をはいていない子でさえ英語が話せて、感心してしまいました。末は通訳か、宣教師かという感じです。そして、午後からは路上伝道と近くの広場に移動してのミニクルセードが行われました。かつての経験からも良いリアクションを期待せずに、でも訓練として祈って聞いて御心と思う賛美や証しをしました。メンバーも賛美、証し、伝道メッセージをどんどんやっていました。すると、あまり人が散らずにとどまっていました。ミニクルセードでも、寄せ集めの賛美隊にもかかわらず1コーラス歌うと、まさかの拍手がおきたりもし、それは働きの段階が変わってきているからということでした。秋元牧師のメッセージでは、救いの招きに応じて多くの人々が前に出てきましたし、癒しの祈りの時には、足の癒し、片方の耳の癒しもあったようですが、耳が聞こえずしゃべれない女の子の癒しは目の前で見ることができました。秋元牧師が耳に手を当てて祈った後、TLCCCダバオの牧師が彼女の耳のそばでパンパンと手をたたいて、次に耳で「ジーザス」といながら「言っごらん」と手招きすると、周りで見ている女の子たちが近づいて、大きな口で「ジーザス！」と言って見せ、牧師が静かにさせると本人が「ジーザス」と言ったので歓声が上がりました。これらのことを通して神様はクルセードや路上伝道といった宣教の働きに御心があることも語ってくださり、クルセードなどの実践宣教チームが用いられ多くの救いや癒しと奇跡が起こり、リバイバルにつながっていくことを思わされました。またマニラに働きが始まることも語られており、マニラからフィリピン全土に向かつての働きが開いていくとも語られています。海外宣教の第2ステージが始まり、フィリピンにおいても新しい段階に入っていることを見させていただきました。

## ■秋元ヨハネ（TLCCC 東京アンテオケ教会）

皆様のお祈りを感謝します。1月14日から1月17日までの日程で、フィリピンに教会のチームが派遣されました。教会の歩みの段階が変わったと言われてから、初めてのフィリピンチームである今回は、殉教に関わった3つの教会との関わりと、クルセードにおける主の御心について、示しを受け帰ってまいりました。

今回の日程は、1日目の午前中にチームを3つの部隊にわけ、それぞれTLCCCダバオ教会、ジャイラチャーチ、福音系の教会を訪問しました。午後はチームが合流しC2Cという教会を訪問しました。チームが派遣される前の予定では1日目の日程はそれで終わりだったのですが、チームがフィリピンに到着してから急遽、1日目の最後にジョイフルチャーチへの訪問が組み込まれました。

このジョイフルチャーチとは殉教に関わった教会の1つです。あとの2つはTLCCCダバオ教会とジャイラチャーチですが、これら殉教に関わった3つの教会全てに訪問できたことに主の御心がありました。3つの教会それぞれで深い主の注ぎかけがあり、特にチームのメンバーと教会員の方々との交わりの場面において、共に殉教を経験した教会であるということ、主の前にあって特別な絆があるということがチームに語られました。この絆がどのように用いられていくのか主に期待しています。

2日目は午前中に孤児院訪問があり、礎の石孤児院から預かっていた衣類を届けました。午後には路上伝道とミニクルセードが行われました。

過去の経験では路上伝道では人はほとんど集まらない、立ち止まっても去ってってしまうというということでしたが、いざ始めてみると20~30人くらい人が集まってきました。またその中には救いの招きに応じる方もいらっしゃいました。

そしてその後のミニクルセードでは、さらに顕著な主の働きの業が現されました。もともと、今回のチームでは1日目の教会での奉仕に重点を置いていたため、クルセードにはあまり重きを置いていませんでした。しかし、いざクルセードが行われると多くの方が主の救いの恵みに預かりました。さらに、癒しの祈りをする中で足を痛めている人の癒しや、耳の不自由な人の癒しといった癒しの御業もなされました。



このことは主の十字架クリスチャンセンター初期に派遣された、初めてのフィリピンチームで行われたこととリンクします。そして、その頃はチームでクルセードに参加し、その中で多くの方が救われ、癒しの恵みに預かりました。教会の歩みが第2段階に進んだと言われる今この時に、主が第1回フィリピンチームのクルセードと今回のクルセードの霊的な部分の関係性を示してくださったことには深い意味合いがあり、そのことを通して今後クルセードを通して大きな主の御業がなされることが語られました。以上がチーム全体として語られたことです。

個人的には「今も昔もとこしえまでも主は共にいてくださる」という御言葉が語られました。そして、少なくとも肉体に縛られている内は現在にしか主体を置けない人間は、その瞬間瞬間神の前でどう在るかが問われているということを気付かされました。フィリピンチームでは証の機会があたえられ、そこで信仰の選びなおしの証をしたのですが、瞬間瞬間に新たに主を選びなおし続けていくことが主の愛を感じ、従ううえで必要であると感じました。

私は今回初めて本格派遣に参加させて頂きました。そしてチームの働きを見るなかで、主の御業の力強さ、確かさを感じました。また、それとともに個人個人に対して、慰めや立て上げの手を置いてくださっていることに深い愛を感じました。主が私達と共にいてくださることに感謝したいと思います。